生徒の心に火を点ける言葉
～ペップトーク～

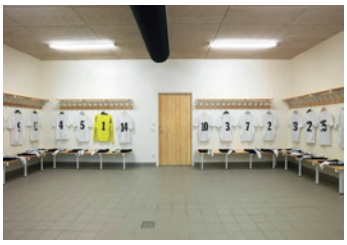
学校長　横山　豊

2023年の3月。日本中がWBC（World Baseball Classics）における大谷選手の活躍に熱狂しました。その決勝であるアメリカ戦直前のロッカールームにおいて、大谷選手がチームメイトに言った一言が、当時マスコミで大きな話題となりました。「僕から1個だけ。あこがれるのはやめましょう」タイミングとしても、魔法のような一言であったようです。選手たちは奮い立ち、日本はまさに劇的な優勝を遂げました。

しばらく前に、三森啓文著「ペップトーク」という本を読みました。PEPTALKとはアメリカのプロスポーツ界から生まれた「人を励ますための言葉や話」のことであり、年俸何十億円ももらっている超一流の選手たちに、最高のパフォーマンスをしてもらえるように、監督は必死で言葉を考えるのだそうです。そして生み出された、短く、わかりやすく、肯定的な、魂を揺さぶるショートスピーチがペップトークなのです。

最近あるテレビ番組で、WBCのロッカールームにおける大谷選手の発言こそペップトークのお手本であると、話題になりました。さらに番組の中では、様々なペップトークの実例が紹介されるとともに、ペップトークのペップという音を逆にした日本製の造語「プッペトーク」というものが生まれたという情報も届けられました。

この「プッペトーク」とは、まさにペップトークの真逆の効果を生み出すものであり、ネガティブな言葉で、相手のためを装い、ゴールは無視して、延々と人のやる気をなくす、説教、命令などの残念トークであり、それを聞いた人々を絶望の淵へと導くようです。



日本には1300年も前の万葉の昔から、言葉には魂が宿るという、「言霊信仰」がありますが、この「ペップトーク」の中に、まさに「言霊」の存在を、そして「言葉」の持つ力を強く感じます。

私の好きな言葉に、19世紀のアメリカの教育学者かつ牧師であり、哲学者でもあったと言われているウィリアム・アーサー・ウォードの次のような言葉があります。

The mediocre teacher tells.
The good teacher explains.
The superior teacher demonstrates.
The great teacher inspires.

By Sir William Arthur Ward

これに名訳をつけた方がいらっしゃり、様々な学校、塾などの教育機関に、次のような訳文がよく貼られています。

「凡庸な教師はよく喋る。少しましな教師は理解させようと努める。優れた教師は自ら実行して見せる。本当に優れた教師は生徒の心に火を点ける。」

私は鶯谷中学・高等学校の教壇に立ち続けて、今年で45年目となりますが、今でも教員生活を振り返った時に、何度「生徒の心に火を点けることができたのだろうか？」と自問し続けています。

これから岐阜県の教育界で活躍する若い先生たちに望みます。生徒たちが自己否定をしやすい今の時代だからこそ、常にペップトークで語りかけ、「生徒の心に火を点ける」ことのできる「本当に優れた教師」になってほしいと思います。

The great teacher inspires.